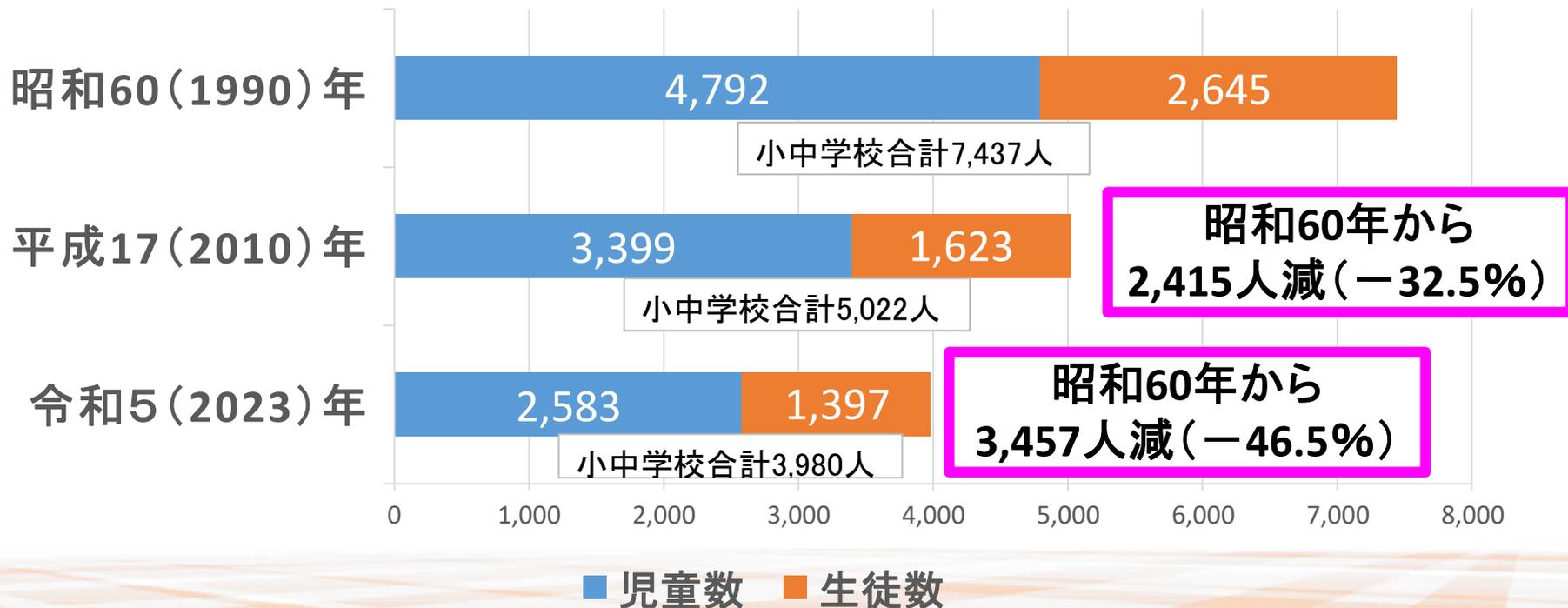


**未来の羽村の学校について
一緒に考えてみませんか**

羽村市教育委員会

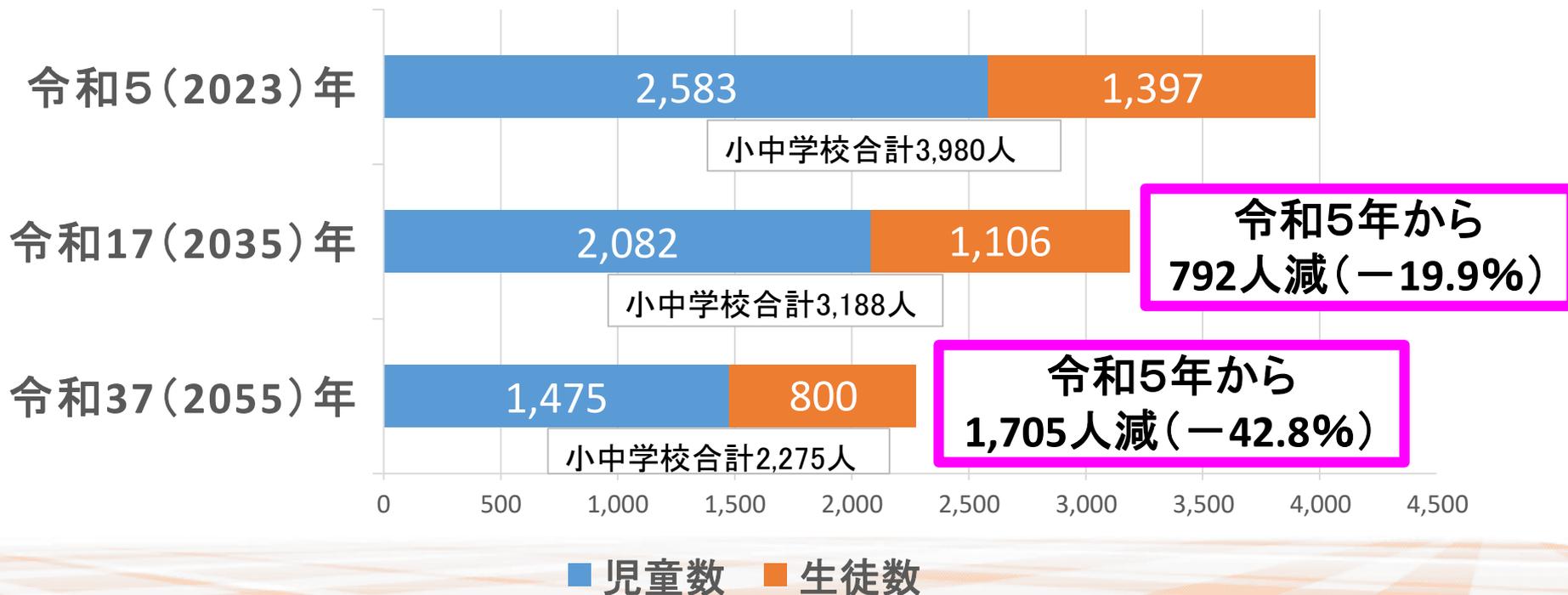
子供たちの人口の推移

児童・生徒数の推移(実績)



子供たちの人口の推移

児童・生徒数の推移(推計)



中学校の今と、これから

減少率に基づくシミュレーション

	A中	B中	C中
令和5年 (2023)	学級 16 教員 24	学級 15 教員 22	学級 8 教員 13
令和17年 (2035)	学級 13 教員 19	学級 12 教員 18	学級 6 教員 10
令和37年 (2055)	学級 10 教員 15	学級 9 教員 14	学級 5 教員 9

※生徒推計に基づくシミュレーションを示したもので、参考値として算出したものです。

※1学級当たりの児童・生徒数を最大35人として捉え、算出しています。

※教員定数については、令和7年度東京都公立小・中学校教職員定数配当方針に基づき算出しています。

小学校の今と、これから

減少率に基づくシミュレーション

	D小	E小	F小	G小	H小	I小	J小
令和5年 (2023)	学級13 教員15	学級14 教員16	学級16 教員18	学級12 教員14	学級8 教員10	学級12 教員14	学級13 教員15
令和17年 (2035)	学級8 教員10	学級10 教員12	学級11 教員13	学級8 教員10	学級5 教員6	学級10 教員12	学級9 教員11
令和37年 (2055)	学級6 教員8	学級7 教員9	学級8 教員10	学級6 教員8	学級4 教員5	学級7 教員9	学級7 教員9

※児童推計に基づくシミュレーションを示したもので、参考値として算出したものです。

※1学級当たりの児童・生徒数を最大35人として捉え、算出しています。

※教員定数については、令和7年度東京都公立小・中学校教職員定数配当方針に基づき算出しています。

「小規模校」とは・・・

1学年が1学級(単学級)で編制される
など、学校全体で児童・生徒の数が
少ない学校。(教員数も少なくなる)

10年後には全ての小学校が
30年後には中学校も1校が

小規模校のメリット

- 個に応じたきめ細やかな指導ができる。
- 異学年間の交流活動や合同の学習活動を設定しやすい。
- 学校行事等をコンパクトに行うことができる。

小規模校のデメリット

- **6年間(3年間)学級替えが行われない。**
- **新たな人間関係を築いたり、学級同士で切磋琢磨し合う中で高め合ったりする機会の設定が難しい。**
- **教員数が減ること、教育活動が限定的になったり、一人一人の教員の負担が増加したりする。**

適正な規模の学校

児童生徒が集団の中で、多様な考えに触れ、認め合い、協力し合い、切磋琢磨することを通じて一人一人の資質や能力を伸ばしていくという学校の特質を踏まえ、小・中学校では一定の集団規模が確保されていることが望ましい。

文部科学省「公立小学校・中学校の適正規模・適正配置に関する手引」から

適正な規模の学校

- ◆子供たちが切磋琢磨し、互いに成長する学校
- ◆教師が共に高め合い、子供たちを育てる学校
- ◆多彩な教育活動、多様な学び、居場所のある学校
- ◆持続可能な学校



羽村市における学校の適正な規模について協議

国の基準

国が示す、小・中学校の規模の標準

○小学校 適正な学級数 各学年2学級～3学級

○中学校 適正な学級数 各学年4学級～6学級

◆1校当たり **12学級～18学級**(学校教育法施行規則)

羽村市に当てはめると

10年後 小学校3～5校 中学校2～3校

30年後 小学校2～4校 中学校2校

国の基準では・・・

仮に学校数を国の標準の「**最大値**」で設定すると・・・

10年後 小学校5校 中学校3校

30年後 小学校4校 中学校2校



「再・小規模化」「再・再編」による混乱

教育委員会の考え

- ①人間関係に配慮した柔軟な学級編制が可能
- ②学級同士が切磋琢磨し合う中で、社会性や向上心を育成
- ③専門教科に正規教員を配置
- ④各学校に必要な教員数を確保

教育委員会の考え

小学校 適正な学級数 各学年3学級～4学級

(1校当たり18学級～24学級)

中学校 適正な学級数 各学年5学級～6学級

(1校当たり15学級～18学級)

10年後 小学校3校 中学校2校

30年後 小学校2校 中学校2校

※10年後、30年後の学校数は、教育委員会の考える適正な学校数(学校の規模)を基に、仮に計算した数値であり、10年後に小学校3校・中学校2校、30年後に小学校2校・中学校2校に再編することを示すものではありません。

再編後の学校では・・・

- 人間関係に配慮した柔軟な学級編制
- 学級同士の切磋琢磨 社会性や向上心の育成
- 専門教科担当を含む十分な教員数の確保



- ◆子供も教師も生き生きと活躍し成長する学校
- ◆多彩な教育活動、多様な学び、居場所のある学校
- ◆持続可能な学校

◆小中一貫教育の充実

義務教育9年間を見通し、小学校と中学校とが、
より密接で効果的な教育活動を展開

◆コミュニティ・スクールの充実

より広い地域に根差し、地域間の交流の拠点となる
学校の実現

再編後の学校では…

一方で…

学校を再編する = 学校の数が減る

自宅から学校までの距離が
長くなる子供もいる

通学について

今後検討

- 公共交通機関(青梅線・はむらん)の利用
- 自転車(中学生)による通学
- スクールバスの導入

等々

学校再編のスケジュール

慎重に進めていく一方で、
小規模化に伴い、
早急に対応が必要な学校も

- よりよい教育環境の整備
- 広く市民の声を聴取し、「公共施設」としての学校という視点をもって、具体的な計画を立案

まとめ

- 将来的な児童・生徒数の減少に備え、持続可能な学校とするため、学校再編が必要
- 教育委員会の考える、学校の望ましい規模は、
小学校18～24学級 中学校15～18学級
- 望ましい規模の学校において、教育活動を一層充実させ、子供たちの学びと成長を支援

未来の羽村の学校について
一緒に考えてみませんか

皆さんの声を、お聞かせください

羽村市教育委員会